

令和元年6月26日現在

機関番号：32683

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K04148

研究課題名(和文)トラウマ/PTSDリカバリー専門家養成・支援のための国際連携プログラム開発と評価

研究課題名(英文) Development and evaluation of the workshop program for training professionals of trauma care and PTSD recovery

研究代表者

井上 孝代 (INOUE, Takayo)

明治学院大学・国際平和研究所・名誉教授

研究者番号：30242225

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究はトラウマ/PTSDケア先進国イスラエルの専門家との連携により、心理・医療・福祉等の専門家向けにトラウマケアの新しい概念モデルであるリカバリーを標榜する「トラウマ/PTSDリカバリー専門家養成・支援プログラム」を開発・実施した。多職種の専門家をネットワーク化し、フィードバックや結果データの蓄積により、プログラムを改良し、現場に繋げる。トラウマ/PTSDリカバリーにあたる専門家の継続的な養成と支援者の支援をおこなった。これらのプロセスを単行本にまとめた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究はトラウマによるPTSDを予防するために、ケア先進国イスラエルの専門家との連携をおこなった。その協力の下に心理・医療・福祉等の専門家向けにトラウマケアの新しい概念モデルであるリカバリーを目標とした「トラウマ/PTSDリカバリー専門家養成・支援プログラム」を開発・実施した。このことにより表現グループセラピーの有効性が確かめられた。また日本において多職種の専門家をネットワーク化し、フィードバックや結果データの蓄積により、プログラムを改良し、現場に繋げることができたトラウマ/PTSDリカバリーにあたる専門家の継続的な養成と支援者の支援の方法の手引きとして、単行本を発行した。

研究成果の概要(英文)：In order to support survivors of disaster, training for professionals is essential. (1) We developed and evaluated the workshop program for training professionals of trauma care and PTSD recovery. (2) Empowerment evaluation was conducted to the participants of the training program. (3) The continuous program development has been done to organize the network of the various kinds of professionals.

研究分野：心理学

キーワード：PTSD リカバリー ト라우マ 東日本大震災 グループワーク 表現セラピー 苦勞体験学 PTG

## 1. 研究開始当初の背景

研究代表者はNPOの理事として被災者および支援者のトラウマケア/PTSD 予防のための活動をサポートしてきたが、さらなる援助のためには専門的な人材養成が必要であると痛感した。これまでの経験と知見により、人材育成のワークショップを継続的に実施するプログラムを立案して、そのための準備活動を行ってきた。

## 2. 研究の目的

被災者および支援者のトラウマケア/PTSD 予防のための専門的な人材養成が喫緊の課題である。本研究では、3年間の東北支援を通じて構築してきた知見とネットワークを元に、(1) トラウマ/[PTSD ケア先進国イスラエルの専門家との連携により、心理・医療・福祉等の専門家向けにトラウマケアの新しい概念モデルであるリカバリーを標榜する「トラウマ/PTSD リカバリー専門家養成・支援プログラム」を開発・実施し、(2) アクションリサーチの形でエンパワメント評価を行う。プログラム内容は、特に海外で「レジリエンス強化技法」として知られる「表現セラピー」を根幹とし、イスラエルの心理療法家と連携しながら日本的に設計・実施する。同時に多職種の専門家をネットワーク化し、フィードバックや結果データの蓄積により、プログラムを改良し、現場に繋げる。これはトラウマ/PTSD リカバリーにあたる専門家の継続的な養成と支援者の支援を可能にする。

## 3. 研究の方法

本研究は以下の方法を用いた。

- (1) 「トラウマ/PTSD リカバリー専門家養成・支援プログラム」を開発・実施
- (2) アクションリサーチの形で参加者に対する参加型エンパワメント評価
- (3) プログラム実施によるトラウマ/PTSD リカバリーにあたる専門家の継続的な養成と支援者の支援

## 4. 研究成果

1年目に、研究代表者の井上は、イスラエル人のアートセラピストを講師に招き読書療法の日本人を対象にグループ表現のトレーニングを実施するとともに、医療系学会においてもワークショップ企画しその報告を行った。また、研究の進展を踏まえ、「トラウマケア/PTSD 予防における支援者支援の課題」をテーマに学会におけるシンポジウムで発表を行った。さらにグループ表現セラピーによる支援活動と心的外傷後成長との関連をまとめ、その成果による研修会を応用心理学会で企画・実施した。研究分担者の伊藤とともに、本研究で用いられたPAC分析の方法論的考察を行い国際学会で発表した。

2年目は(1)井上・いとう・福本・オレン(2016)の単行本を2016年に公刊した。その構成は次のとおりである。序章：トラウマケアノリカバリーの専門家養成のための国際連携-プログラム開発を目指して、第1章：日本にトラウマケアの力を育てる-東北復興支援におけるJISPの活動を通して-、第2章：トラウマケアにおける表現セラピー、第3章：トラウマケア/リカバリーの専門家養成プログラム-包括的グループ表現セラピーの視点-、第4章：被災支援者養成のためのグループ表現セラピーの実際、第5章：心的外傷後成長(PTG)研究におけるナラティブ・アプローチ-苦勞体験学(Suffering Experience Research)に向けて-、第6章：テキストマイニングによる被災体験学(Disaster Experience Research)への混合研究法アプローチ-死に関する表現と心的外傷後成長(PTG)-、第7章：東北被災者における援助体験学(Helper Experience Research)-援助者セラピー原則(Helper Therapy Principle: HTP)に着目して。(2)井上・いとう・オレン(2017)により、科研費研究の中間総括論文を公刊した。(3)井上孝代(2016, 10月)、岡本・小玉・津田・成田・いとう・井上(2016年9月)、井上孝代・プレスラー(2016)など国内学会で発表し、Okamoto, H., Kataoka, M., Kodama, S., Narita, A., Tsuda, Y., Ito, T., & Inoue, T. (2016, July)、Inoue (2016, July)、Ito (2016, July)など国際学会で本の研究内容の報告を行った。

3年目は、(1)岡本悠・津田友理香・片岡真紀・小玉紗織・成田彩乃・いとうたけひこ・井上孝代の連名により、2017年11月に心理臨床学会で成果の発表をおこなった。(2)Tsuda, Y., Okamoto, H., Kataoka, M., Kodama, S., Narita, A., Ito, T., Inoue, T. と連名で2017年8月に中国蘇州で芸術性心理臨床の国際学会で発表して、この分野での国際交流をおこなった。(3)研究代表者が本研究の成果を踏まえて、日本カウンセリング学会の招待講演及び日本ピアメディエーション学会の設立記念講演をおこなった。(4)水野修次郎と共同で、本研究の成果を踏まえて、単行本を出版することができた。

最終年度である2018年度はホスピタル・ブレイの専門家養成とも連携して、以下のような成果を得ることができた。(1)加藤恵美・松平千佳・津田友理香・片岡真紀・いとうたけひこ・井上孝代(2018)。ホスピタル・ブレイの普及の意義 対人援助専門職を主な対象としたアク

ティブラーニング型研修会を通して 静岡県立大学短期大学部研究紀要 32 - W 号(2018 年度) - 3, 1-20. (2) 井上孝代・いとうたけひこ (2018, 11 月 9 - 10) トラウマケアと PTSD 予防のためのグループ表現セラピーとコミュニティ構築: スリランカ研修会の実践報告 第 25 回多文化間精神医学会学術総会 2018 年 11 月 9 日-10 日 ホテル日航成田 (3) 井上孝代・いとうたけひこ (2018, 9 月) ビジュアル・ファシリテーションのカウンセリングへの導入と効果: コンフリクト解決のシングル・セッション事例をもとに 日本カウンセリング学会第 51 回大会 (2018) 9/16-17 松本大学。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 3 件)

- 1) 加藤恵美・松平千佳・津田友理香・片岡真紀・いとうたけひこ・井上孝代 (2018). ホスピタル・プレイの普及の意義 対人援助専門職を主な対象としたアクティブラーニング型研修会を通して 静岡県立大学短期大学部研究紀要 32 - W 号 (2018 年度) - 3, 1-20.
- 2) 井上孝代・いとうたけひこ・エイタン・オレン (2017). 東日本大震災における国際連携支援とコミュニティ再生: グループ表現セラピーと語りにおける心的外傷後成長 (PTG), *こころと文化*, 16(1), 51-61
- 3) 津田友理香・片岡真希・岡本 悠・小玉紗織・成田彩乃・いとうたけひこ・井上孝代 (2017). 中国蘇州における表現性心理療法国際学会での発表報告「臨床心理士養成大学院生を対象としたグループ表現アートセラピー研修プログラムの開発と評価」*マクロ・カウンセリング研究*, 10, 61-72

〔学会発表〕(計 14 件)

- 1) 井上孝代・いとうたけひこ (2018, 9 月) ビジュアル・ファシリテーションのカウンセリングへの導入と効果: コンフリクト解決のシングル・セッション事例をもとに 日本カウンセリング学会第 51 回大会
- 2) 加藤恵美・松平千佳・津田友理香・片岡真紀・いとうたけひこ・井上孝代 (2018, 11 月). ホスピタル・プレイの普及の意義 対人援助専門職を主な対象としたアクティブラーニング型研修会を通して 第 25 回多文化間精神医学会学術総会 ホテル日航成田
- 3) 岡本悠・津田友理香・片岡真紀・小玉紗織・成田彩乃・いとうたけひこ・井上孝代 (2017, 11 月) 臨床心理士養成大学院生を対象としたグループ表現セラピー体験ワークショップに関する試み 日本心理臨床学会第 36 回大会発表論文集, 305.
- 4) 井上孝代 (2017) 和解をもたらす対話のチカラ: マクロカウンセリングの立場から 多文化間精神医学会 (招待講演)
- 5) 井上孝代 (2017) カップルのコンフリクト解決に応用する「トランセンド法」 日本カウンセリング学会 (招待講演)
- 6) Tsuda, Y., Okamoto, H., Kataoka, M., Kodama, S., Narita, A., Ito, T., & Inoue, T. (2017, August). *An expressive art group therapy training program for clinical psychology graduate students in Japan: Program and assessment* 臨床心理士養成大学院生を対象としたグループ表現アートセラピー研修プログラムの開発と評価 The 6th International Conference of Expressive Psychotherapy Case Study 第 6 回表現性心理療法学会事例発表 中国蘇州・蘇州第一高等学校
- 7) 井上孝代 (2016, 10 月) 東日本大震災の被災者・援助者のいやしと語り 第 8 回仏教心理学会

- 8)岡本悠・小玉紗織・津田友理香・成田彩乃・いとうたけひこ・井上孝代 (2016年9月). グループ表現セラピーによる専門家養成プログラムにおける参加者の変容プロセス：複線経路等至性アプローチ(Trajectory Equifinality Approach)を基に 日本心理臨床学会第35回秋季大会プログラム, 394.
- 9)井上孝代・シュロミット・プレスラー (2016). ワークショップ4 ト라우マ・ケアにおける Bibliotherapy (読書療法) 日本外来精神医療学会会誌,16(1),78-79.
- 10)Ito, T., Naito, T., Inoue, T., & Ozawa, I.(2015,September). *Is PAC Analysis a mixed methods research?* Mixed Methods International Research Association (MMIRA) Asia Regional Conference in Japan
- 11)井上孝代 (2015, 9月). ト라우マ・ケア PTSD 予防のための表現セラピーを活用した支援と心的外傷後成長(Posttraumatic growth : PTG) 日本応用心理学会第82回大会,18.
- 12)井上孝代(2015, 8月)トラウマケア/ PTSD 予防における支援者支援の課題 日本カウンセリング学会第48回大会
- 13)Okamoto, H., Kataoka, M., Kodama, S., Narita, A., Tsuda, Y., Ito, T., & Inoue, T. (2016, July) *A Basic Study on Professional Training Program of PTSD / Trauma Care through Expressive Art Therapy: Based on Trajectory Equifinality Approach*. Poster session presented at ICP2016, Yokohama.
- 14) Ito, T. (2016, July) *The results and evaluation of the interview and documentation of Voices of Tohoku after the Earthquake 2011*. Poster session presented at ICP2016, Yokohama.

〔図書〕(計 2件)

- 1)水野修次郎・井上孝代(2017) ワークブック「対話」のためのコミュニケーション：ピアメディエーションによるもめごと防止 協同出版
- 2)井上孝代・いとうたけひこ・福本敬子・エイタン・オレン (編) (2016) ト라우マケアと PTSD 予防のためのグループ表現セラピーと語りの力 風間書房

〔その他〕

ホームページ等

井上孝代マクロカウンセリングセンター (MCC 目黒)

<https://www.takayoinoue.com/>

いとうたけひこ研究室

<https://www.itotakehiko.com/papers/>

Researchmap (井上孝代)

<https://researchmap.jp/takayoinoue>

Researchmap (いとうたけひこ)

<https://researchmap.jp/itotakehikowako/>

ResearchGate (Takehiko Ito)

[https://www.researchgate.net/profile/Takehiko\\_Ito/contributions](https://www.researchgate.net/profile/Takehiko_Ito/contributions)

ResearchGate (Takayo Inoue)

[https://www.researchgate.net/profile/Takayo\\_Inoue3/contributions](https://www.researchgate.net/profile/Takayo_Inoue3/contributions)

Acaemia.edu (Takehiko Ito)  
<https://wako.academia.edu/TakehikoIto>

以上のように論文や著作を、井上、いとうの個人ホームページおよび ResearchGate、Academia.edu、SlideShare, Researchmap, ORCID などにアップロードして、公開している。

## 6 . 研究組織

### (1) 研究分担者

研究分担者氏名：伊藤武彦

ローマ字氏名：ITO, Takehiko

所属研究機関名：和光大学

部局名：現代人間学部

職名：教授

研究者番号 (8 桁): 60176344

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。